令和5年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

別紙様式2(高)

目指す学校像	・向上心を持ち自分に適した進路を実現できる学校 ・学習した知識や技能を基に資格等の取得ができる学校 ・ICTを効果的に活用できる学校 ・ルールやマナーを大切にしている学校 ・特別活動が充実した学校 ・地域に根ざした信頼される学校 ・働き方改革を推進する学校		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	向上心を持ち、主体的に学習や学校生活に取り組み、協働して地域社会の発展に貢献できる人材	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	3学科の特色を生かすとともに生徒の幅広い学習ニーズに応え、ICTを効果的に活用した学習活動とキャリア教育により、就職から大学進学まで生徒一人一人の多様な進路希望を実現	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	学校や社会の規範を守り、多様性を尊重し認め合いながら日常生活を送ることができ、授業はもとより、学校行事、生徒会活動、部活動などに積極的に取り組む意欲のある生徒	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<成果> 普通科、機械・情報技術科、商業科を有する特長を生かし、幅広い選択科目を設定したり、課外活動を充実させることにより、資格取得や個々の希望進路の実現に力を注いでいる。 <課題> 令和3年度入学生から、機械科、情報技術科の2学科が、機械・情報技術科の1学科になったことに伴い、教育課程やコース制を柔軟かつ円滑に運営することが求められる。 また、本校の教育目標である、次の1～4を達成するために、地域や関係機関との交流・連携を深め、進学・就職と多岐にわたる進路希望の実現を継続していくことが求められる。 1 一人ひとりの個性を生かし、学ぶ意欲や創造性を育む。 2 豊かな人間性や社会性を育む。 3 健やかに生きるための丈夫な身体を育む。 4 産業社会の発展に貢献できる力を育む。	教育課程の充実	① 指導方法の改善や学校設定科目(シン発見)に係る取組の充実を図ると共に、令和4年度入学生から適用された新学習指導要領において、生徒の基礎学力の定着と向上、進路目標の達成に対応できる教育課程の構築を図る。 ・ 設定科目の効果的運用のため、入学生の実情を把握し、現状に合わせた習熟度・少人数学習を行う。 ・ 各学科それぞれの特色が最大限に発揮できる教育課程の編成及び実現を図る。 ・ 多様な進路希望に応えられる、柔軟性のある教育課程を編成する。	B
	学習指導の充実	② ICTを積極的・効果的に活用し、分かる楽しさが実感できる授業を展開することで、生徒の主体的な学びを引き出し、進路目標に応じた学力と専門性を身に付けさせる。 ・ 授業でICTを活用し、学習内容の理解促進を図り、学ぶ意欲の向上を図る。 ・ 確認テスト、実力テストなどで理解度を確認し、個に応じた指導を展開することにより、基礎・基本を確実に定着させる。 ・ PDCAサイクルにより、生徒の学力を適切に評価し、学習課題を明確にすることにより、学習意欲の向上を図る。 ・ 発展的な問題にも取り組ませるなど、大学等への進学希望を持つ生徒に対する個別指導を充実させることで、さらなる学力向上を図る。 ・ 生徒の実態に応じたICT教材の研究、相互の授業参観、教科内の連携・研修等を通して、学習指導の工夫や質的向上を図る。	B
	進路指導の充実	③ 三年間を見通したキャリア教育を推進することで、生徒の望ましい勤労観・職業観を育成し、多様な進路目標の実現を図る。 ・ 聞く力、表現する力、進路実現のために必要な態度やマナーなどを身に付けさせる「3年間を見通した指導体制」を構築し、生徒のコミュニケーション力の向上を図る。 ・ 外部講師等の人材を有効に活用するとともに、インターンシップ・デュアルシステムや進路説明会に生徒を主体的に参加させることにより、進路意識の高揚を図る。 ・ 向学心を高め、計画的かつ継続的な課外指導を実施することで、大学進学にも十分対応できる学力を身に付けさせる。	B
	生徒指導の充実	④ 基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚に努めるとともに、人間としての在り方生き方に関して考察を深めさせることで、豊かな心の育成を図る。 ・ 生徒面談、アンケート調査、家庭訪問、ホームルーム活動の工夫を通して生徒理解に努める。 ・ 頭髪・服装指導や遅刻防止等の徹底に努め、基本的生活習慣の確立を図る。 ・ 挨拶・マナーを確実に身に付けさせ、規範意識や社会性の育成に努める。 ・ ボランティア活動を促し、人間としての在り方生き方を考えさせることで、社会の一員として主体的に生活することができるようにする。 ・ 特別指導を充実させ、問題行動の未然防止及び再発防止を図る。	B
	特別活動の活性化	⑤ 生徒会活動・部活動等の活性化を図り、充実感・達成感を味わえる、明るく活気ある学校づくりに努める。 ・ 1年生に部活動入部を促し、学校の活性化を図るとともに、規律ある生活態度や自律性に富む生徒の育成を図る。 ・ ホームルーム活動、委員会活動や生徒会活動の充実を図り、生徒一人一人が自主的・主体的に参加できるよう支援する。 ・ 地域の行事やキャンペーンにも積極的に参加するよう生徒を促し、地域との連携を図りながら生徒の活躍する姿を地域に発信していく。	B
	キャリア・パスポートの積極的活用	⑥ 学校内外での生徒の活動や学びのプロセスを振り返るキャリア・パスポートを作成し、その活用を通して、基礎的・汎用的能力を身に付けさせる。 ・ 授業や学校行事、部活動等の様々な体験や学びの中において目標を設定させ、振り返り・見直しを図り、「自分らしい生き方」を模索できるようにする。 ・ 地域社会や企業との連携を図り、学ぶことや働くことの意義について考えさせ、今学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを持てるようにする。	B

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

令和5年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

地域連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> ⑦ 地域との密な連携と交流を推進し、生徒の活躍の機会を拡げるとともに、生徒が活躍する姿を積極的に発信することで、地域から信頼され、期待される活力ある学校を目指す。 ・ ホームページの充実を図り、保護者や地域、中学校等への積極的な情報発信に努める。 ・ 学校外からの声も積極的に取り入れ、学校・家庭・地域社会が相互に連携・協力した教育活動を推進する。 	B
働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ⑧ 業務の役割分担の適正化、ICTの導入を図るとともに、教職員の勤務時間に関する意識改革や業務の改善を進め、時間外勤務の減少を目指す。 ・ 業務の役割分担（基本的には学校以外が担うべき業務、学校の業務だが必ずしも教師が行う必要のない業務、教師の業務だが負担軽減が可能な業務）について見直し、教員の負担軽減を図る。 ・ 勤務時間の管理や適正な勤務時間の設定（勤務時間の把握、登下校指導・部活動・学校の諸会議等の適切な時間設定、学校閉庁日の設定など）を行い、ICT教材の共有化を進め、勤務時間に関する意識改革と時間外勤務の抑制を図る。 	B
授業改善の推進	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの視点を実現した生徒たちの姿を念頭に置き、その姿に近づけるためにどのような授業の工夫ができるのかを追求していく。 ・ 授業について全職員で協議する場を設定することにより、一人一人が授業改善にかかわる具体的な方策を出し合い、他教科から学ぶ機会を得る。 ・ 「身に付けさせたい力（目的）」を意識した上で、授業の「ねらい、課題、発問、板書、まとめ、振り返り」など、各場面の質的向上を図る。 ・ 生徒や他の職員の声、評価等をもとに日々の授業を振り返り、目指す授業像を描き、改善策を立てる。 ・ 教科・領域や使用する教材、生徒の実態に応じて、適当なICT機器を活用するなどして、より多様な授業形態の実践を図る。 ・ 指導計画、教材研究、教授資料など、共有化を図り、他の教員の効果的・先進的な取り組みを学び、自身の授業改善に活かす。 ・ 生徒による授業評価（4段階）において、授業満足度（KPI）3.4以上を目指す。 	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
各教科	国語	基礎学力の向上と定着	実社会に必要な国語の知識や技能を定着させる授業を行うために、学習目標の具体化や指導方法と学習評価の見直しを行う ①②	A	B 実社会に必要な国語の知識や技能の定着を図るために語彙力を高める学習を意図的に行うことができた。しかし、思考・判断・表現力を磨くための学習目標に沿った言語活動の充実を実践することができていない部分があったため、次年度はよりペアワークやグループ学習といった協働的な学習を授業に取り入れられるよう努めたい。
		ICTの活用と主体的・対話的で深い学びの実践	ICT（タブレット・電子黒板）を活用した学習や、ペアワークやグループ学習といった協働的な学習を授業に取り入れることで、的確に理解し効果的に表現する資質・能力の向上を図る ②	B	
		授業改善	授業満足度（KPI）の平均が3.4以上になるように言語活動の充実や授業改善を図る ②⑨	B	
	地理歴史	基礎・基本の定着	教材の精選と分かる授業の展開を図る ②	A	B 生徒各個人の学力伸長を目指し、より「分かりやすい」授業の実践と適切な教材研究の推進を継続する。
		主体的に活動させる授業実践	教材・教具の工夫やICTを活用した授業の展開を図る ②	B	
		授業改善	授業満足度（KPI）の平均が3.4以上になるように授業改善を行う ②⑨	B	
	公民	基礎・基本の定着	教材の精選と分かる授業の展開を図る ②	A	B 教材の共有量を増やし、全生徒に同程度の授業を展開することで学力の平準化を目指す。
		主体的に活動させる授業実践	教材・教具の工夫やICTを活用した授業の展開を図る ②	B	
		授業改善	授業満足度（KPI）の平均が3.4以上になるように授業改善を行う ②⑨	B	
	数学	基礎学力の定着	個に応じた適切な教材・課題を用意し、反復練習・振り返りを通して、基礎学力の定着を図る ②	B	B ・数学Ⅰ/Ⅱで実施している習熟度別授業は、クラス別展開よりも上位・下位クラスについては高い学習効果が出ている。反面、中位クラスに関しては、意欲的に学習に取り組む態度の醸成にもう一工夫必要だと感じる。 ・新しく学習する単元について、事前学習として、生徒自身がwebを用いて調べ、レポートにまとめる活動を行ったが、進捗が芳しくない生徒が一定数出てしまう。支援の仕方について工夫が必要と感じる。
		習熟度授業による学習支援	習熟度でクラスを編成し、個に応じた学習支援を行い、基礎学力の向上を図り、自己肯定感を高める②	A	
		学びに向かう態度の醸成	探究活動やICT機器の活用など、単元に応じた様々な働きかけを行い、学習意欲を高める ②⑨	B	
授業改善の推進		教科の枠を越えた相互授業参観や、他校の実践例の視察・視聴等を積極的に行い、STEAMやPBL等、授業展開の仕方を見直し、年度末の授業満足度において、KPIの平均値が3.4以上となるよう、「学びの楽しさ」を実感できるよう授業改善を図る。 ②⑨	B		
理科	基礎学力の向上	理論の有用性に気付かせ、主体的に学ぶ姿勢を向上させる授業実践に努める ②	B	B 実験観察や映像教材を多く取り入れ、興味関心を引き出す工夫を行っているが、主体的に学習に取り組めていない生徒が多く見られる。そのため、基礎知識の定着が不十分な生徒や思考力の向上まで至らない生徒がいる。次年度は、内容をさらに精査するとともに主体的に学習に取り組めるように支援していきたい。	
	実験・観察の充実	生徒の意欲・関心をさそう実験・観察を積極的に取り入れた授業展開を図る ②	A		
	主体的・対話的で深い学びにつながる授業実践	調べ学習、グループワーク、振り返り等の実施や、ICT機器の適切な活用により、主体的・対話的で深い学びの実践を目指す ②⑨	B		
	授業改善	授業満足度（KPI）の平均が3.4以上になるように授業改善を行う ②⑨	A		
保健体育	技能の定着	個・グループの実態に応じた指導方法の工夫と反復練習による技能の定着を図る ②	B	B グループ活動やICTを活用して、合意形成を図る場面を形成する。体育が苦手な生徒が一定数いるため、一人一人の違いに応じた指導をし、主体的に取	
	主体的に活動させる授業実践	教材・教具の工夫やICTを活用した授業の展開を図る ②	B		
	運動器具・設備等の安全管理と確保	体育用具・設備の安全管理の徹底を図る ②	A		

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

令和5年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

各教科	芸術	授業改善	授業満足度（KPIの平均が3.4以上になるように授業改善を行う	②⑨	A	B	り組める授業展開を考えていく。 音楽、美術とも、基本的技能の定着を図るとともに、興味関心を引き出す工夫を取り入れ、一人一人が主体的に取り組める授業を目指す。
		基礎・基本の定着	読譜をはじめとした基礎的な知識と技能の定着を図る（音楽）	②	B		
		興味・関心の向上	多彩な作品の学習によって音楽への興味関心と自己表現力の向上を図る（音楽）	②	B		
		作品の鑑賞及び制作を通して自己表現力の向上を図る（美術）	②	B			
	授業改善	授業満足度（KPI）の平均が3.4以上になるように授業改善を行う	②⑨	A	A	STEM教育を意識した音楽鑑賞を3学年統一して実施できた。ICTを取り入れた授業実践をさらに研鑽しているいろいろな展開例を増やしてゆく。	
	外国語	基礎学力・基本事項の定着	生徒への声かけと丁寧な反復指導により基礎・基本の定着を図る	②③			A
	興味・関心の向上	ICTなど教育機器を適切に活用し、生徒が興味を持てる教材の作成と活用を図る	②③	A			
	個に応じた学習指導の充実	生徒の実態や進路希望に応じたきめ細かい指導の実践を図る	②	B			
	授業改善	授業満足度（KPI）の平均が3.4以上になるように授業改善を行う	②⑨	A	B	実習において丁寧な個別指導を行い、生徒の意欲喚起につながった。体育科とのSTEAM教育も効果的に実施できた。次年度はICT環境を整え、立体的な授業展開をしていきたい。	
	家庭	基礎力の定着	生徒の実態に応じた授業内容の工夫ときめ細かい指導の実践を図る	②			A
	実験・実習等の教育環境の充実	実験・実習・演習等を中心とした授業の展開と、そのための教育環境の充実を図る	②	A			
	授業改善	授業満足度（KPI）の平均が3.4以上になるように授業改善を行う	②⑨	B	B	今年度はプログラミング教育が不十分であったため、次年度は生徒が楽しくプログラミングを学習できるように工夫した授業を展開していきたい。	
情報	パソコンの基本的な操作の習得	コンピューターに関わる基本的な用語及び知識の理解と定着を図る	①	A			
	基本的なプログラミングについての知識習得を図る	①	C				
	授業改善の推進	教科の枠を越えた相互授業参観や、他校の実践例の視察・視聴等を積極的に行い、STEAMやPBL等、授業展開の仕方を見直し、年度末の授業満足度において、KPIの平均値が3.4以上となるよう、「学びの楽しさ」を実感できるよう授業改善を図る。	②⑨	A			
ネットワーク利用のモラルの定着	生徒の興味・関心のある教材を活用した指導の工夫を図る	①	B	A			昨年度に引き続き、実習や資格指導では充実した教育をうけさせることができた。特に外部指導者であるものづくりマイスターを活用し実用的な技術教育は有意義だった。次年度は、パソコンやタブレットを活用した授業をさらに浸透させていきたい。
機械・情報技術科	座学と実習との連携	座学内容と実習内容との連携の強化を図り、分かる授業を展開す。	①②				
	実践的な能力と態度の育成	座学と実験・実習を横断的に取り入れることで基礎学力の定着と、集中して話を聴く姿勢の育成を図る	②④		B		
	安全の確保や事故の防止	安全教育の実施及び事故防止に向けた安全管理の徹底に努める	④		A		
	各種資格の取得	授業や補習による資格取得の支援に努める	②③		A		
	興味・関心を引く授業実践	パソコンや電子黒板、タブレットを活用して、生徒が興味関心を持てる授業の充実を図る	①②		B		
授業改善	授業満足度（KPI）の平均が3.4以上になるように、ICT機器等を使用し授業改善を行う	②⑨	A	A	地域と連携した取り組みを実施することができた。次年度は更に販路拡大を図りたい。資格取得への講座編成と補修授業の充実を目指す。		
商業	コミュニケーション能力の育成	販売実習等の体験的な学習の充実のため、授業の工夫や地域連携を図る	②③⑥			A	
	商業教育のスキルアップ	一人一人の能力を把握し、必要に応じて補習授業等を実施する	②			B	
	授業改善	授業満足度（KPI）の平均が3.4以上になるように授業改善を行う	②⑨	A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題		
教務	校務全般の円滑運営を図る	中学校訪問等を通して、本校の取り組みを積極的に広報し、入学希望生徒の拡充を図る	②	B	・多数の教員や生徒の協力のもと、複数回の学校説明会を実施することができたが、参加者数をより多く確保することが課題である。 ・授業時間を確保しつつ、各種行事の充実・効率化を図るため、関係する校務分掌と緊密な連絡・調整を行う必要がある。 ・心的原因により欠課時数が多い生徒に対して、養護教諭やSSと協力し、対象となる生徒へのアプローチ方法や体制を研究・構築していく必要がある。 ・ICT機器の積極的活用について、確実に前進しているが、より効果的な活用方法を検討し改善を進めていく必要がある。	
		各校務分掌との情報交換を密に行い、適切な連携・調整に努める	②⑧	B		
		各分掌の企画の把握と連携・調整を的確に行い、円滑な学校運営に努める	②	A		
	行事等の円滑な企画・運営	教務部内の業務を従来以上に複数人で分担し、情報共有を密にすることで、行事の円滑な企画・運営に努める	②	A		
		年間・月間計画の企画・立案と適切な変更・調整に努める	②⑧	B		
	成績不振者等への適切な対応	定期考査の事前準備を適切に行い、生徒への周知徹底を図る	②	A		
		成績不振・遅進者に対する課外指導等を、教科・学年と連携し、年間を通して計画的に行う。	②	B		
		欠課時数の多い生徒に対して、適切な指導に努める	②	B		
		成績や欠時に関して、学年と連携し、生徒及び保護者等へ早期に対応をする	②	B		
	適切な情報管理	成績処理と事務処理の効率化を図る	①②	B		
		ICTを活用した授業の充実を図れるよう、電子黒板やタブレット端末等の機器管理や研修の充実に努める	①②	B		
		ホームページなどを活用し、外部への情報発信を充実させる	①～⑥	A		
校内ネットワークの保守管理及び個人情報の管理の徹底を図る		①～⑥	B			
働き方改革の推進	業務内容の見直しと効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る	⑧	B			
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	挨拶の励行を主眼とした、計画的な立哨指導等の実施を図る	④	A	B	問題行動及び交通事故の総数はR4年度18件であったが、R5年度は50%以上の減を見通せる程となっており、未然防止教育等の成果が出ている。次年度も問題行動及び交通事故に関する未然防止
		遅刻を防止する「遅刻カード」の利用及び指導の徹底を図る	④	B		
		服装・頭髪に関する教職員の共通理解と、家庭との連携の徹底を図る	④	B		
	規範意識の向上	規範意識の確立やマナーの向上を目指し、全校集会・学年集会・HR等を活用した指導を促進する	④	A		

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

令和5年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

		規範意識の向上を目指し、ボランティア活動及び特別指導の内容の充実を図る	④	B	教育の更なる充実を図るとともに、規範意識の向上を基に、校則に則った制服の着こなし方、スマートフォン（SNS等）の正しい利用方法などを定着させていきたい。
	安全で充実した学校生活の実現	問題行動や交通事故の未然防止を目指し、学校内外における計画的な巡視を実施する	④	A	
		自転車・バイクの点検と実技指導を計画的に実施する	④	A	
	社会の変化に対応する能力の育成	携帯電話・スマートフォン、SNS等の正しい利用方法の指導の徹底を図る	④	B	
働き方改革の推進	業務内容の見直しと効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る	⑧	A		
進路指導	進路意識の高揚	生徒・保護者への適切な進路情報の提供に努める	③⑥	B	3年間を見通した計画的なキャリア意識養成を実施するために、進路と学年との連携を継続的に図る。 学年内で計画的なCSが実施できるようにしていければと思う。生徒減少において、学年の枠を外した指導計画を検討する。 ペーパーレス及び生徒一人ひとりが有益な情報を得るため、求人票のWEB化についてさらに効率を図る。 ICT化による願書や調査書の書式を教務・学年を交えて統一化を図る。 引き続きハローワークとの連携も継続し、就職活動に生徒への就業感を持たせる。 大学進学指導について、補習計画を教科と連携して実施していく。
		生徒面談の励行に努める	②③④	B	
		進路適性検査・職業適性検査を実施し、分析結果を指導に活かせるよう情報提供に努める	③	B	
		キャリア教育を計画的に実施する	③	A	
		ジョブナビセミナーにおける社会人講師の積極的な活用を推進する	③⑥	A	
		進路資料閲覧環境の充実を図る	③	A	
		キャリアアップ・ガイドブックを発行するとともに、活用方法の工夫を図る	③	B	
		進路決定報告会を計画的に実施する	③	A	
		事前・事後指導の工夫を通じ、効果的なデュアルシステムを実施する	③	A	
	進学率の向上	オープンキャンパスへの参加を奨励していく	③	B	
		総合型選抜・AO入試・推薦入試に向けた面接指導を計画的に実施できるよう学年と連携する	③	B	
		進学模試・進学課外への参加呼びかけに努める	②③	B	
	就職内定率の向上	職業安定所と密に連携する（所長および学卒担当講話・ハローワーク訪問等）	③⑥	A	
		WEB求人を活用した求人情報の提供に努める	③	A	
		卒業生の就職先企業訪問及び求人要請訪問を計画的に行う	③⑥	A	
		生徒の応募前職場見学を励行する	③④	A	
		模擬面接指導を計画的に実施できるよう学年と連携する	③④	B	
		就職合同面接会への参加と事前・事後指導の徹底を図る	③	B	
	学力の向上	学習実態調査の実施と分析結果を、学年やHRでの指導に活かせるよう情報提供に努める	②③	B	
		宮トレによって「できる」感覚を育成し、学習に向かう気持ちの醸成を図る	②③	B	
働き方改革の推進	業務内容の見直しと効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る	⑧	B		
保健図書	一人ひとりの個性を生かし学ぶ意欲や創造性と生きるための丈夫な身体を育む	生徒の実態に応じた、専門家による学年別性教育講話の実施を図る	⑥	A	多様化した生徒に対して柔軟に対応していくため、アセスメントを的確かつ適切に行い、高校生活を充実したものにできるような支援体制を構築していく。 各種講話や訓練を通して、健康・安全に関する意識の向上を図り、また、校内の環境整備に努める。 図書館の環境整備とニーズに合った選書に努め、読書活動と図書館利用を促進する。
		専門の外部講師による薬物乱用防止教室・喫煙防止教室の実施を図る	⑥	A	
		心身の健康状態の把握に努めながら、適切な指導・援助に努める	⑥	B	
		マラソン大会・修学旅行における事前の保健調査・健康相談等による事故防止の徹底を図る	⑥	B	
		保健便り等を活用し、生徒及び保護者の健康意識の高揚を図る	⑥	B	
		多様化した生徒へ対応する支援体制の構築を図る	⑥	A	
	健康・安全に関する環境の整備と校内の美化を地域と連携し努める	緊急時に備えた避難訓練を、地域と連携して実施する	⑥	A	
		施設設備等の安全点検と管理徹底を図る	⑥	B	
		冬季の健康管理、ストーブの取扱及び換気について指導・管理の徹底を図る	⑥	A	
		清掃用具等の整備と校内外の美化活動の推進を図る	⑥	B	
	図書館利用の推進	飲料水・プールの水質検査の実施を図る	②	A	
		委員会活動の活発化と図書館利用行事の企画・運営に努める	⑤	B	
		図書館環境の整備に努める	②	A	
	読書活動の推進	各教科・学年との連携を密にし、利用推進を図る	②	C	
		興味関心を惹きつける選書をし、読書意欲の向上を図る	③	B	
		図書や資料に関する適切な情報の提供に努める	③	B	
視聴覚教育の推進	「朝の読書週間」の円滑な実施を図る	⑤	A		
	視聴覚教材の充実を図る	②	C		
働き方改革の推進	業務内容の見直しと効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る	⑧	A		
特別活動	ホームルーム活動の充実	クリーンアップ作戦の企画・立案を計画的に進めていく	⑤	C	年初にクリーンアップの計画は立てたが、実行が半分以下であった。次年度は、活動意義を再考し、実施検討していく。 文化祭の開催頻度等、学校行事の精選の取り組んでいく。 ポートフォリオの意味や効果を年度初め
	生徒会活動の充実	生徒が自主的・主体的に活動するための支援に努める	⑤	B	
		生徒の実態に応じた諸行事の企画・立案に努める	⑤	A	
		各種委員会活動の充実に向けた支援に努める	⑤	B	
学校行事の充実	関連各校務分掌との適切な連絡・調整を図る	⑤	B		

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

令和5年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

		スポーツフェスティバルの円滑な運営のために、適切な企画と運営について工夫改善を図る	⑤	A	に、しっかり理解させ、ただの感想文にならぬよう指導していく。 部活動の精選や運営方法など、限られた人材で最大限の効果が得られるような、指導方法・運営方法を検討していく。 引き続き、ホームページ等による活動PRの充実を図っていく。
		文化祭行事に向けた適切な企画・運営を図る	⑤	A	
	キャリア・パスポートの充実	キャリアパスポートを作成し、メタ認知を高める等の有意義な活用法を図る。	⑥	B	
	部活動の充実	指導内容・方法について工夫・改善を図る	⑤	B	
		活動環境の整備・充実を図る	⑤	B	
働き方改革の推進	ホームページ等による活動状況PRの充実を図る	⑤⑦	A		
渉外	PTA活動の推進	保護者と連携し情報交換に努めることで、PTA総会や定例の評議員会を企画し、会議の円滑な運営を図る	⑦	B	B 次年度、組織改編を行うので移行を円滑に行う。全国大会を控えており、会員と情報共有を行い、組織対応できるように準備する。
		PTA入会式や、支部活動の運営を通して、保護者の本校PTAに対する理解を深め、教員との強固な協力関係を築く	⑦	B	
		PTAだよりの発行や、ホームページへの記事掲載を通じて、広報活動の充実を図る	⑦	B	
		ICTを活用し、学校と保護者間の連絡手段のデジタル化を推進する	②⑧	A	
	同窓会活動の企画・運営	同窓会入会式の運営に加え、同窓会員との情報交換、連絡、調整に努める	⑦	B	
働き方改革の推進	業務内容の見直しと効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る	⑧	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題	
第1学年	集団における生活習慣の確立	集団生活におけるルールを守らせ、公共のマナーやモラルに対する意識を向上させる	④⑥	B	B 今年度に引き続き、生徒の特性を踏まえ、自立を促しつつ、個別面談や保護者への連絡を定期的に行う指導は今後も必要である。また、担任の指導や進路行事等を通じて、進路実現へ意識を向けさせてきたが、より具体的な進路目標の設定が必要である。自発的な進路調査を促すための個別の言葉かけを行い、オープンキャンパス等への参加を促し、参加した記録を残させたい。また、進路活動のなかで、授業・行事の重要性を理解させつつ、資格試験への挑戦など個別の細分化された目標に繋げ、同時に自己肯定感の向上も図っていききたい。自己目標を実現するため、1月の三者面談の結果を学年・進路全体での共有を行う。ICTの活用においては、進路活動で使用するアカウントが複数になり、管理できない生徒がいた。また、「情報収集」・「集約」能力の個人差が大きかったため、行事等の感想文以外にもICT活用の機会をより積極的に設定していく必要がある。
		あいさつの励行と、規律ある生活態度を身につけさせる	④	A	
		生徒の実態を正しく把握し、職員・保護者と連携して問題行動の未然防止・早期発見する指導に努める	④	B	
		整理整頓、清掃を徹底し、教室環境の整備・美化に努めさせる	④	A	
	基礎学力の定着および学びに向かう態度の醸成	基礎学力の重要性を理解させ、日々の授業や宮トレを大切に、学びに向かう態度や基礎学力を身につけさせる	①②	B	
		教科担当者との連携を密に行い、成績不振の生徒に対して個別に応じた指導を行う	②	B	
		資格試験や検定試験へ積極的に挑戦するよう勧め、合格・取得に向けたサポートを行う	②③	B	
	進路指導の充実	進路行事等の意義を理解させ、当事者意識をもって積極的に取り組む態度を身につけさせる	③	B	
		進路行事を中心に、様々な進路・仕事についての理解を深めさせ、適切な進路選択のためのサポートを行う	③	B	
		学校行事を事前に伝えて考えさせることで、スケジュールや情報の整理・管理をする習慣を身につけさせる	③	B	
	社会人に向けての意識改革	本校の一員であることを理解させ、適切な行動をとれるよう、様々な場面で指導を行い「公共心」を育む	③④⑤	B	
		探究活動を通し、社会に関心を持ち、広い視野で物事を捉え、自身の考えを表現する力を養う	①②③	B	
		相手の話を「聞く力」、他者の意見を尊重し互いに高めあう「相互啓発力」を育む	③④	B	
	情報リテラシーの育成およびICT活用能力	情報収集や発信の場面において、情報を適切に判断したり、発信したりするための能力を育てる	②④	B	
タブレット端末を活用することで、「情報収集」・「整理」・「分析」をする能力を育てる		②	B		
電子黒板の各種機能を活用することで、授業に積極的に参加する主体性を育てる		②	B		
働き方改革の推進		業務内容の見直しと効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る	⑧	A	
第2学年	社会人基礎力の育成	「道徳プラス」や探究活動、ホームルーム活動の中で、他者の多様な考え方を認め、また、自身の考え方を表現する経験を通し、幅広い視野を身につけさせるとともに、協働する力を身につけさせる	①③④⑤	B	
		インターンシップや修学旅行、事前の探究活動を通して、様々な人との接し方や公共のマナー・ルール等、社会の一員として生きていくための力を身につけさせる	③④⑥	B	
		生活面、学習面等様々な場面において、個に応じた課題を段階的に与え、解決する過程を通して、自己効力感を高め、自ら挑戦する意識を育む	③④	B	
	基礎学力およびICT活用能力の定着・向上	宮トレを通して義務教育内容の振り返りを定期的に行い、基礎学力を身につけさせるとともに、その重要性を理解させ、日々の授業に主体的に取り組む意識をつけさせることで、更なる学力の向上を図る	①②	C	
		教科担当者との密な連携を通して、成績不振の生徒に対して個に応じた指導を行う	②	A	
		資格試験や検定試験へ積極的に挑戦するよう勧めるとともに、合格・取得に向けたサポートを行う	②③	B	
		情報収集や発信の場面において、情報を適切に判断したり、発信したりするための能力を育てる	②④	C	
	進路意識の高揚	「情報収集」だけにとどまらず、表計算やプレゼンテーションをはじめとした様々なアプリケーションを活用し、「表現力」「分析力」「思考力」を育むとともに、社会とスムーズに調和できるようにICTスキルの向上を図る	②③	C	
		進路関連行事等においてその意義を理解させ、当事者意識をもって積極的に取り組む態度を身につけさせる	③	B	
		進路関連行事を通して、様々な進路・仕事についての理解を深めさせ、適切な進路選択のためのサポートを行う	③	A	
インターンシップを通して、勤労観や職業観を育成し、進路意識の高揚を図る		③⑥	A		
		「シン発見」の授業やキャリアセミナーにおいて、都度、身だしなみや言葉遣い等を徹底し、生徒に「切り替え」を意識		A	

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない

令和5年度 県立常陸大宮高等学校自己評価表

		させることで、進路に対する意識・行動の変容を図る ③④			
	情報共有の徹底	情報共有を密に行い、生徒一人ひとりの実態を正しく把握し、問題行動の未然防止・早期発見・早期支援に努める ④	B		
		進路行事や生徒支援など、生徒の学校生活について、ねらいや基準の統一など教員間で共有し、支援にあたる ③④	A		
	働き方改革の推進	業務内容の見直しと効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る ⑧	A		
第3学年	基本的な生活習慣の確立	適切な生活習慣の定着を促し、自己指導能力の向上を目指す。 ④	B	B	・一人ひとりの進路実現に向けた指導・支援を目指した。キャリア教育という点では、キャリアセミナーやシン発見、宮トレなどを通して横断的な学びの機会を設けてきた。キャリア教育の中でもタブレット等のICT機器を積極的に活用し、教材や提出物をデジタル化したことにより、生徒の情報リテラシーの向上やペーパーレス化に貢献することができた。 ・豊かな人間性の形成においては生徒数が少ない状況もあり課題も見られた。特にソーシャルスキルの向上という点では、各セミナーや講演会を通して、試行錯誤をしてきた。今年度初めて行ったアンコンシャスバイアス講演会は1年時で行った方が効果が得られやすいと感じた。 ・
		あいさつや礼儀などの基本的なコミュニケーション技術の定着に努める。 ④⑤	A		
		公共性の大切さを理解し、倫理観に基づいた言動や行動を促す。 ④⑤	B		
		教員間や保護者との連携を通して、生徒の特質を把握し、問題行動の未然防止、早期指導に努める。 ④⑥	B		
	基礎学力の定着と情報リテラシーの向上	授業や学びに向かう力・態度の育成に取り組み、課題や提出物の期限の指導に努める。 ②	B		
		ICT機器を効果的に活用し、情報を適切に得たり、編集したりする力を育む。 ②	A		
		個々の生徒の学習状況と課題を把握し、面談を通して適切な助言と指導に努める。 ②③	A		
	進路指導とキャリア教育の充実	検定・資格取得をきっかけに進路活動への主体的な関わりを促す。 ②③	A		
		生徒や保護者との面談を密に行い、適切な進路情報を提供し、一人一人が主体的な進路実現を実現できるよう促す。③⑥	B		
		「宮トレ」や「シン発見・学力向上Ⅱ」を通じ、個別の進路指導に応じた、基礎学力・応用力の強化に努める ①②	A		
		「シン発見・進路探求応用」を通じ、進路実現につながる情報収集や面接練習、履歴書・作文作法などの個別指導を行うことで課題対応能力の向上を図る ①③	A		
	豊かな人間性の形成	キャリアセミナーⅢを通して、一人一人の望ましいキャリアを実現するための資質・能力を育成する。 ③⑤	A		
		「シン発見」や「LHR」を通じ、人間関係形成能力や望ましい職業観・勤労観の育成を図る ①③	B		
		ホームルーム活動や、学校行事における取り組みにおいて、生徒同士の共感的な人間関係作りを行う。 ④⑤	B		
日々の学習や進路実現に向けて踏むことができた様々なスモールステップを通して、自己肯定感の育成を図る。 ②④		A			
		進路実現に向けての様々な活動を通して、ソーシャルスキルの向上を図る。 ③④	B		
	働き方改革の推進	業務内容の見直しと効率化に取り組み、時間外勤務の削減を図る。 ⑧	A		

* 評価基準 A: 十分達成できている B: 達成できている C: 概ね達成できている D: 不十分である E: できていない